

笠間市長 山口 伸樹

笠間藩士である小野友五郎は、日本初の太平洋横断をした咸臨丸の航海長として知られています。友五郎は笠間藩算術世話役の甲斐駒藏の和算塾に入門し和算を学び、努力を重ね、才能を生かして、下級藩士から幕臣となり、軍艦頭取や勘定奉行並などの幕府重職まで勤め上げました。また、勝海舟らとともに長崎海軍伝習所へ派遣された時には、航海術や天文学、西洋の微積分などを学び、後に太平洋横断や小笠原諸島の実測図作成を成し遂げました。晩年は、鉄道敷設の事業に携わり、製塩業の発展にも尽くすなど、その功績は多岐にわたりました。貴会の活動を通して、このような偉大な功績を残した地元出身の偉人である小野友五郎が広く後世まで伝えられていくことをご祈念申し上げます。(当会顧問)

作家 鳴海 風

現代と違って世界で何が起きているか分からなかった鎖国の時

代、小野友五郎は笠間が生んだ最初の国際人です。イギリスによる清国侵略であるアヘン戦争が始まった翌年、友五郎は藩の指示で江戸へ出ました。やがて日本は、

来航したペリー提督の圧力で開国しましたが、侵略の脅威はなくなりませんでした。友五郎は、今度は幕府の指示で、長崎でオランダ人から海軍技術を学び、咸臨丸航

会の新たな船出に寄せて

海長として渡米しました。帰国後は、蒸気軍艦の設計、海防論の執筆、造船所建設に協力、さらに軍艦購入使節のリーダーとして再渡米するなど、日本海軍創設のために活躍しましたが、それは国を守るためでした。外国に侵略されることなく明治を迎えると、友五郎は、鉄道敷設のための測量や事業性評価で貢献しました。激動の幕末から明治維新にかけて、世界の実情を知っていて卓越した技術を

持っていた友五郎の存在は大きいものでした。(当会名誉会員)

笠間稻荷神社宮司 埴 東男

小野友五郎を伝えてゆく会の新たな船出と会報発刊にあたり、ひとことお祝い申し上げます。笠間藩士の友五郎は幼少期より算術、和算に秀で、天文学や測量術、航海術を学び身に付けていきました。

遣米使節の護衛軍艦の咸臨丸の航海長として太平洋横断の任務を果たすとともに、明治維新後からは鉄道建設に関わり、測量に尽力しております。晩年には製塩業にも手を広げており、江戸時代末期から明治時代にかけての動乱の世の中を社会のために働き通しました。笠間の偉人として顕彰してまいります。本会のご発展と杉田捷機會長のご健康とご活躍を祈念してご挨拶いたします。(当会顧問)

サザコーヒー会長 鈴木誉志男

私はひたちなか市のコーヒー屋です。生涯学習として、江戸時代にコーヒーを飲んでいた人、江戸っ子から蘭癖(らんぺき)、オランダの習俗を憧憬、模倣するオランダかぶれ」と呼ばれた茨城人を探し調査するのが趣味です。笠間の小野友五郎、日立の蘭方医柴田方庵、古河藩の鷹見泉石は江戸末期にコーヒーを飲んでいました。なんと杉田捷機さんが小野友五郎の研究をしていることを知りました。旧知の杉田さんが友五郎の研究をしていたことにビックリしました。早速、多くの資料を頂き、速いスピードで(初めてアメリカンコーヒーを飲んだサムライ・小野友五郎珈琲物語)を完成することが出来ました。友五郎は三人の蘭癖の中で、サンフランシスコ、ニューヨーク、ワシントンで一番多くコーヒーを飲みました。このようにご縁で笠間焼が好きな私は小野友五郎の応援団に入会しました。(当会理事)